

り、今夕を星合の空とよめるは、中むかしよりなり、是花山院御時、七夕の歌つかうまつりけるに、藤原長能、袖ひぢて我手に結ぶ水の面にあまつ星合の空をみるかな、と新古今和歌集よめるをはじめとして、星合のかげとよめるも、おなじき比よりとおもはる能因法師の星合のかげみぬ人のと後拾遺よめるをはじめ、是より以前には撰集諸家の集等に所見なし、此能因が歌も長能の家にてよめるとあれば、此比星合といふ詞はいひ出しあるものとおもはる、なり、又天つ星合のよ、星合の濱などよめる歌もあり、あげてかぞふべからず。

〔萬葉集十雜〕七夕

乾坤之、初時從天漢、射向居而、一年丹、兩遍不遭、妻戀爾、物念人、天漢安、乃川原乃、有通出、出○アリガヨウトシ誤、出蓋古、乃渡丹、具其誤、恐穗船乃、艤丹裳、船裝真棍繁拔旗荒、恐本葉裳具其誤、世丹、秋風乃、吹來夕丹、天川、白川、凌落拂速湍涉、稚草乃妻手枕迹、大船乃思憑而榜來等六、其夫乃子我荒珠乃年、緒長思來之、戀將盡、七月七日之夕者吾毛悲鳥。

〔萬葉集十雜〕七夕

一年適、七夕耳、相人之、戀毛不遇者、夜深往久毛、

一云、不盡者、佐宵曾明爾來、

〔實隆公記〕永正三年七月七日乙酉、星節、幸甚々々、

〔令義解雜〕凡正月一日、略、中、七月七日、略、中、皆爲節日、其普賜臨時聽勅、

〔西宮記〕七月、内膳供御節供、付采女采女、房、五七九、内藏設殿上酒、略、中、已上見藏人式、

〔江家次第八月〕同日、七月、御節供、内膳司付采女采女、房、入自鬼間北障子供於朝餉御臺二

本、盛物十六坏、陪膳女房以下上髮、雖夜朝餉不下格子供之、内藏寮居酒肴於殿上如恒、

〔東宮年中行事〕七月、おなじき日、すせむのかみ、供御せちくをまいらす事、おなじきちやうか